

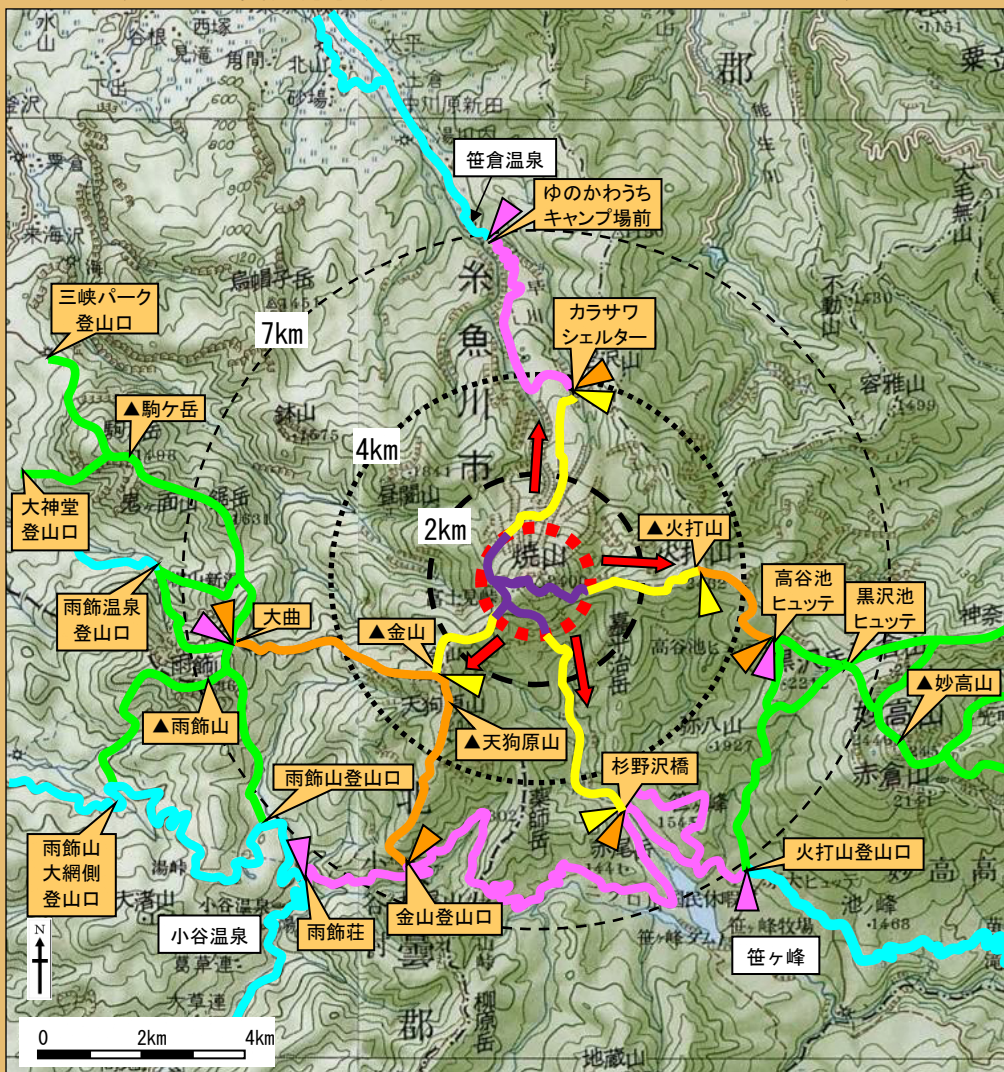
新潟焼山の噴火警戒レベル

—火山災害から身を守るために—

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています（レベル5は「避難」、レベル4は「避難準備」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」）。
- 対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報等でお伝えします。



新潟焼山 噴火警戒レベル2～3に対応した規制範囲



この地図は、国土地理院「数値地図200000（地図画像）」を使用しています。

- 噴火警戒レベルに応じて次のような防災対応が必要になります。
- レベル5（避難）：危険な居住地域*からの避難等
- レベル4（避難準備）：警戒が必要な居住地域*での避難準備、要配慮者の避難等
- レベル3（入山規制）：山頂から概ね半径4km以内立入規制
（レベル3（拡大）の時は山頂から概ね7km以内立入規制）
- レベル2（火口周辺規制）：【2km規制】山頂から概ね半径2km以内立入規制
【1km規制】山頂から概ね半径1km以内立入規制
- レベル1（活火山であることに留意）：規制なし。活動状況により想定火口域内への立入規制等

*レベル4または5の場合に防災対応が必要となる居住地域は、山頂から約7km以上遠に位置します。

【新潟焼山の特徴】

- 妙高火山群の北端に位置し、活動開始時期は約3000年前と考えられ、日本の複成火山の中では最も新しい火山の一つである。
- 火砕流や溶岩流、火山灰や軽石が堆積した安山岩質成層火山で、約1000年前の火砕流は日本海まで達した。最近では1974年に水蒸気噴火があり、噴石のため山頂付近にキャンプ中の登山者3名が死亡している。

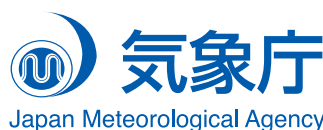
- この地図は噴火警戒レベル2～3のときの規制範囲を示しています。
- 居住地域*まで影響が及ぶ場合はレベル4（避難準備）・レベル5（避難）となります。

- ：想定火口域
- ：レベル2(1km規制)のとき立入規制
- ：レベル2(2km規制)のとき立入規制
- ：レベル3のとき立入規制
- ：レベル3(拡大)のとき立入規制
- ：レベルによる規制なし(登山道)
- ：" (道路)
- ▲：レベル2(2km規制)の規制箇所
- ▲：レベル3の規制箇所
- ▲：レベル3(拡大)の規制箇所
- ：避難の方向(避難経路)

- 新潟焼山の噴火警戒レベルは、新潟焼山火山防災協議会において協議、作成されました。
- 各レベルにおける具体的な規制範囲等は、地域防災計画等で定められています。詳細については、糸魚川市、妙高市、小谷村にお問い合わせください。



本冊子は、植物油インクを使用しています。



問い合わせ先

気象庁地震火山部火山監視課 火山監視・警報センター
TEL：03-6758-3900(内線5189) <https://www.jma.go.jp/>

■新潟地方気象台 TEL 025-281-5872
<https://www.jma-net.go.jp/niigata/>

■長野地方気象台 TEL 026-232-3773
<https://www.jma-net.go.jp/nagano/>

新潟焼山の噴火警戒レベル

種別	名称	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び 登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報(居住地域) または 噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	● 規模の大きな噴火が発生し、火砕流、溶岩流、融雪型火山泥流(積雪期)が居住地域(山頂から約7km以遠)に到達、あるいはそのような噴火が切迫している。 過去事例 887年 ^{※1} : 火砕流・溶岩流の発生。火砕流は日本海に達したと思われる。溶岩流は火口から約6.5kmまで到達。 1361年 : 火砕流が日本海へ到達。 1773年 : 火砕流発生。一部は南側にも流下。
			4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での避難準備、要配慮者の避難等が必要。	● 火砕流、溶岩流、融雪型火山泥流(積雪期)が居住地域(山頂から約7km以遠)まで到達するような噴火の発生が予想される。
警報	噴火警報(火口周辺) または 火口周辺警報	火口から居住地域近くまで 火口周辺	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等 [■] 。 住民は通常の生活。状況に応じて要配慮者の避難準備。	● 溶岩ドームが出現するなど、火砕流、溶岩流を伴う噴火により居住地域の近くまで(山頂から概ね7km以内)重大な影響を及ぼすことが予想される。 ● 山頂から概ね4km以内に大きな噴石を飛散させる噴火が発生、または予想される。
			2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	想定火口域周辺あるいは想定火口域内への立入規制等 [■] 。 住民は通常の生活。	● 山頂から概ね2km以内に大きな噴石を飛散させる噴火が発生、または予想される。 過去事例 1974年 : 水蒸気噴火が発生し、大きな噴石が山頂から約2km以内に飛散。 ● 山頂から概ね1km以内(想定火口域)に影響を及ぼす噴火の発生が予想される。 過去事例 1983年、1997～1998年、2016年 : ごく小規模な噴火。火口周辺に降灰。
予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏、あるいは、火山活動の状態によっては火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて想定火口域内への立入規制等。 住民は通常の生活。	● 状況により、噴気活動や地震活動に若干の高まりが認められる ^{※2} 。 ● 火山活動は静穏。

注) ここでいう「大きな噴石」とは、主として風の影響を受けずに弾道を描いて飛散する大きさのものとする。

注) 想定火口域とは、山頂溶岩ドーム周辺(山頂から概ね半径1kmの円内)をいう。

※1) 「887年」については、より詳しい年代測定の結果から1235年頃の鎌倉時代とする研究(早川ほか、2011)がある。

※2) 状況により、「火山の状況に関する解説情報(臨時)」などを発表して活動状況をお知らせします。

■ レベル2～3に対応した規制範囲は表面をご参照ください。なお、各レベルにおける具体的な規制範囲等は地域防災計画等で定められています。詳細については、糸魚川市、妙高市、小谷村にお問い合わせください。

■ 新潟焼山の噴火警戒レベルは、新潟焼山火山防災協議会において協議、作成されました。

■ 最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧になれます。<https://www.jma.go.jp/>